

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2018/7/17										
所属学部	千葉大学大学院 融合理工学府										
所属学科・専攻	創成工学専攻 デザインコース										
1. 留学先について											
留学先大学名	アアルト大学 / パリデザイン大学										
留学先所属学部等	プロダクトデザイン										
留学期間	出発日	2017/8/24	入学日	2017/9/1	修了日	2018/7/13	帰国日	2018/7/19			
住居	大学(紹介)の寮・アパート	民間アパート		<input type="radio"/> その他()							
	通学時間	30分						<input type="checkbox"/> On campus			
	通学方法	徒歩									
	居室スペース	個室	<input type="radio"/>	()	人部屋	その他()					
	共有スペース	完全個室	キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	バス	<input type="radio"/>	リビング	その他()		
食事	自炊	40%	学食	50%	外食	10%	その他	()			
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険									
	派遣先大学指定の保険(名称)									強制加入	
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	成田 ⇄			フィンランド(飛行機)				⇄ フランス(飛行機)			
総費用	2,500,000 円										
出どころ											
自費	<input type="radio"/>	貯金	200,000 円	アルバイト	円	その他	円				
援助		両親	円	家族・親戚	円	その他	円				
奨学金		JASSO	円	<input type="radio"/>	その他名称(トビタテ)	170万 円					
その他		千葉大学助成金	円	その他()	円						
2-1. 財政管理の方法											
渡航時	現金	30,000 円			その他()						円
留学中	海外送金	キャッシング	<input type="radio"/>	その他()							
2-2. 各費用の支払い方法											
大学に払った費用											
住居にかかった費用	銀行で振り込み										
その他											

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			250,000	円
海外旅行保険			50,000	円
OSSMA			17,000	円
査証・在留許可証			25,000	円
住居			1,200,000	円
食費			800,000	円
通学に要する交通費			158,000	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			(家賃に含まれるため)0	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex} 正規、聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無		
			有	○	無
1 INTRO	正規	2ECTS	有	○	無
2 Product Architecture Design	正規	10ECTS	有	○	無
3 User Inspired Design Knowing	正規	5ECTS	有	○	無
4 User Inspired Design Making	正規	5ECTS	有	○	無
5 Survival Finnish for Exchange Students	正規	1ECTS	有	○	無
6 Atelier SINDALL	正規	15ECTS	○	有	無
7 Activisme par la donnée	正規	3ECTS	○	有	無
8 Eco-conception et design	正規	3ECTS	○	有	無
9 Volume:pratique et culture de la forme	正規	3ECTS	有		無
10 Atelier de graphisme	正規	3ECTS	有		無
11 Studio creation son : Marche Augmentee - Audio Walk	正規	3ECTS	○	有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

パリデザイン大学: 留学生コーディネーターと話し合って選択し、第三希望まで伝える。
アアルト大学: 履修登録サービスで自分で登録。後日履修できるか連絡が入る。

3-2. 授業内容、方法に関して

週に1回、授業に参加している学生たちとアイデアの共有、それ以外は個人で作業し、先生との話し合いでフィードバックをもらう。

3-3. 語学力について

細かい部分が英語で伝えることが難しかったため、イラストや写真を用いて説明することで、伝えることができた。フランスは、学生もあまり英語が得意ではないため、アイデア共有の時にフランス語で急に話したすことがあり、周りの学生に聞いて理解しようとするが、かなり厳しかった。

3-4. 図書館など学内施設について	アアルト大学: 大きな図書館、作業するための工房が設置されていた。それぞれの工房で担当の先生が必ずいるため、何を作りたいかなどを伝えると的確な方法を教えてくれるため、とてもありがたかった。ENSCI: 小さな大学だが、工房や図書館は自由に使える。レーザーカッターや3Dプリンタは数に限りがあるため、最終プレゼン前はたくさんの学生が使用するため、使えないこともあった。
3-5. その他	
4. 生活面	
4-1. 住居について	フィンランド: 6人のシェアフラットで、知り合いの日本人の女の子がいたため、何か困った時は相談しあうことができた。学校まではバスで一本のため通いやすかった。徒歩5分以内にスーパーや電車の駅があり交通の便もよかった。 フランス: 家から学校までの距離が近く、徒歩で通うことができた。またパリの中でも治安が良い地区に住んでいたため、危険なこともなく生活できた。親子が暮らしている家の一部屋を貸してもらっているため、トイレやお風呂、キッチンが共有。ホストマザーさんが優しく時々夕食と一緒に食べたりしていた。
4-2. 食生活について	フィンランド: フィンランドは物価が高く、外食は時々しか出来なかったが、学食は2.8ユーロと安いので、お昼ご飯は学食、夜ご飯は家で自炊が多かった。冬になるにつれて野菜が新鮮ではなくなっていくのが少し気になったが、それ以外は日本と同じように食材を買うことができた。 フランス: フランスも物価が高く、スーパーも基本的にフィンランドよりも高いように感じた。お昼ご飯は学校のそばのパン屋さんやお惣菜屋さんが学割でやすくなるので、利用していた。
4-3. インターネット環境、携帯電話について	フィンランド: 毎月19ユーロで無制限のため、パソコンをテザリングしてどこでもインターネットを使える環境だった。 フランス: 毎月20ユーロで無制限ではなかったが、生活に困ることはなかった。フィンランドに比べると繋がりづらいことが多いと感じた。フランス・フィンランド共に学校にWi-Fiがあったため、作業で困ることはなかった。
4-4. 服装について	フィンランド: 9月でもかなり寒く、秋服で過ごし10月でコートが必要だった。 フランス: 2月は寒く日本で着ていたもので大丈夫だったが、5月くらいから急に暑くなり、朝夜と昼の温度差が大きかったため、上着は一応学校に持っていったりした。
4-5. 健康管理について	特に重い病気にはならなかった。風邪薬で対応。
4-6. 保険、OSSMAの利用について	保険及びOSSMAは利用しなかった。
4-7. 課外活動について	アアルト大学・ENSCI: 授業での企業訪問、地域活性化イベントの参加。
4-8. 学外のコミュニティとの交流について	フランスの同じ学校の学生の知り合いのパーティーに参加した。劇に関する仕事や勉強をしている人たちで違う分野について話を聞くのは面白かった。
4-9. 日本から持参してよかったもの	授業で使用する文房具(カッター、接着剤、定規等)
4-10. 日本から持参したが不要だったもの	洗濯物ローブ(乾燥機を使って必要なかったり、ホストマザーさんから貸していただいたので必要なかった)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)	
フィンランド:フィンランドはかなりに日本に近い人の距離感。ハグもなし。フランス:大学での先生と学生が対等な関係が築かれていて、授業のディスカッションが自分の意見を言いやすい雰囲気があった。	
旅行	
フランス・マルセイユ(観光)2018年7月、3万円 フィンランド・タリン(観光)2017年10月、7000円 モロッコ・マラケシュ 2018年4月、7万円	
その他	* 気分転換やストレス発散法など。
友だちとのスカイプ、休日に美術館に行く。日本食を食べる。	
5. その他	
5-1. 留学先大学について	
アアルト大学:総合大学のため、キャンパスが大きい。デザインの工房はかなり充実しており、留学生でも、これ作りたい!とアイデアを先生に伝えると快く制作を手伝ってくれる。 パリデザイン大学:プロダクトデザイン、テキスタイルデザインの2つの学科しかない小さい大学。人数が少ないため、セメスターが終わると、授業でどのような作品を作ったのか1人30分先生と話す機会があり、先生からコメントをいただいた。	
5-2. 留学希望者へのアドバイス	
私は、英語がスラスラ話せないなので、思ったことはすぐ言うように心がけた。また、話しかけることを意識して生活することで、英語力がつくように感じた。英語に限らずプレゼンが苦手なので、メモを見ないなど、苦手を克服するために小さな目標を立てて授業に取り組んだ。	
5-3. 留学を終えて	
授業を通して、日本と文化や生活の異なる2つの国で学ぶことで、文化の違う国ならではの考え方、デザインの方法を授業や生活を通して、実際に体験して知ることができた。フィンランドでは、私の入った学科には様々な分野に精通している人が多く、また一度仕事をして、また大学で勉強する人が多いため、いろいろな話を聞いたり、教えてもらうことができた。いろいろな分野を勉強している人たちがグループでデザインを考えることで、それぞれの異なる視点からアイデアを考えることができるため、普段思いつかない新しい視点での考え方を学ぶことができた。フランスでは、どの授業も自分にとって大切なことや感性からデザインを考える授業が多く、自分の価値について知る良い機会になった。	